

1. 献品者 学校(高校)、高校職員、修道院から各1件  
今回は特に幼稚園と小学校の保護者多数および職員から

2. 献品リスト

献金 2件 1,000円

食品

米～ 30.5kg×2袋、15kg×1袋、10kg×1袋 2kg×1袋  
ビニール袋 大3袋、小2袋

梅干し～ 大パック6個、ビニール袋に1、ご自宅の瓶に1

海苔 10枚詰め32袋 ジャガイモ・タマネギ3～4ずつの袋1 砂糖 大袋1

割り箸 90膳 ティッシュ2箱 蕎麦2 箱詰め煎餅1個

衣類・雑貨

靴3 オーバー類11 セーター類31 ポロシャツ類52 スポン36

ブレザー類7 背広上下3 靴下6 トレーナー2 石けん1箱 タオル類20

3. 夜回り報告(10月5日)

- ①国際センター ～ 一人はセンターの裏のベンチで、一人は前の庭園のベンチで、二人とも睡眠中なので、そっと声をかけながらおむすびゆで卵と炊き出し案内を置いてきた。
- ②西公園 ～ 旧図書館わきのテントハウスのおじいさんは変わらない。陸橋の下で暮らすおじさん(55歳)も元気だったが、ぼやきも口にした。(その1)炊き出しに自分も行きたいが顔を見知った手配師が来ていて、様子を窺っている。「仕事をやるから」と彼らに囲まれたことがあった。※話の真偽は未確認だが、あり得る話だった。(その2)市民プールのテントハウスが撤去されることになり、これまでずっと親切だった警察や市の調査員が手のひらを返したように突然態度を変えて、この場所を立ち退かせるつもりらしい、とのこと。橋下のテントハウスはメンバーがすっかり入れ替わり、市民会館の坂下に一人で暮らしていたワタナベさんが移りすんでいて説明してくれた。皆センターやアパートに入り、若い夫婦は駅の方に移ったとのこと。
- ③勾当台公園とその周辺 ～ ベンチのミカサさんは不動の元気。そのことを言うと、本人はカラカラと笑う。足かけ10年のつき合いになるこの人は、炊き出しには一度も来たことがない。いつものとおりおむすび・ゆで卵・炊き出し案内を渡した。それとタバコ1本。ベンチに他に一人睡眠中。音楽堂ステージに4人。顔ぶれがまた変わっていた。※仙台での新顔ホームレスはこの音楽堂でまず挨拶をするのが掟とのこと。耳にした話だが、未確認。青葉区役所手前のベンチが定位置の(別の)ワタナベさん。話し好きで10分もいることあり。「とにかくこじきで酒飲むやつはだめだ。金ないのに酒飲んでる。だからこれ(人差し指を曲げてみせる『盗み』のこと)をやってる。「こじきは楽だ。昼間も暖かい所で寝てるもの。「こじきもこじきでないのも、みんな大変だ。苦勞だ。…」だんだん私とかけ合いが始まり最後は漫談になってしまう。
- ダイエー地下広場に10時半過ぎに集合し、解散した。
- 時々自問自答で出てくるテーゼ『なぜ夜回りか?』が頭にまたふっと出る。個人的には、炊き出し以上に夜回りにこだわり、夜回りでの出会いに重点を置いてきた。苦澁と人のさみしさ、哀しみばかりでなく、人の不思議さと喜び、楽しみにも出会えるのが私の感じる夜回りである。

4. 炊き出し報告(10月8日)

高2の息子とドミニコの高校生3人(前回とは別の3年生)を連れて行った。炊き出しに参加した路上生活者は84人(うち女性5人)。お預かりした献品類はその日にかなり出た。特に衣類は、季節の変わり目のせいか、いつもよりたくさん求める人たちが目立った。

## 生徒感想文

① はじめて炊き出しに参加して、おばさん達と一緒にたくさんのおにぎりを作りました。後にも先にもきくと、こんなにおにぎりを作ることはないだろうと感じました。

わたしたち3人でホームレスの方たちに靴を渡す係をしていて思ったのですが、本当にホームレスなのかと思う人が何人かいました。身につけているものや靴や携帯等…。

携帯電話を持てるなら、家（アパート）を借りるとかもっと違うことにお金を使った方がよい気がしました。親子でホームレスになっている人もいて少しびっくりしました。とてもひかえめな親子でした。ホームレスはホームレスでも、仕事をしたいのにホームレスになった人または自らホームレスになった人もいるのではないかと思いました。

色々なことが学べたので炊き出しへの参加はいい経験になりました。（岡元望美）

② ホームレスの炊き出しに参加して、私は貴重な体験ができたと思います。

ホームレスの人たちは私たちが準備して持って行った豚汁や雑貨類をもらいに公園に集まっていました。最初はその並んでいる列を見て、私はホームレスの人たちとどう接してよいかかわからずにいました。でも炊き出しが始まってホームレスの人たちから話してくれたりして、気がついたら自然に接することができていました。またボランティアに来ている人たちとも話すことができました。私は普段年上の人と話すことが少ないので、たくさんの人と話すことができたのは楽しかったです。

また機会があったらやってみたいです。（佐藤瑠美子）

③ 私が炊き出しに参加したのは友達に誘われたからです。

私の家の近所にはホームレスがいないので時々仙台駅で見るくらいでした。そういう時も昼間なのにお酒を飲んでいたりして、正直ホームレスの方のイメージは「怖い」ということでした。

ボランティアは衣類整理と調理班に分かれてやりました。私は友達と調理班で他のボランティアの方々とおにぎりを作りました。作るのは230個で、ボランティアの方たちは慣れた手つきで次々とおにぎりを握り、たらい5個分のご飯であつというまに266個のおにぎりができました。

それから五橋公園に移動しました。公園には既にたくさんのホームレスの方々が待っていました。私は靴や服のサイズを聞いて渡す手伝いをしました。

炊き出しに参加してボランティアの方やホームレスの方の役に立ててよかったと思います。（澤木翔子）

## 5. まとめ

大量の献品とその多くの人々の心に感謝します。たまたま前回の夜回り通信（vol 6）を持って幼・小に献品のお願いをしに回ったら、「ちょっと相談してみます」との返事。そして今回のこのたくさんのお供物が届きました。幼稚園も小学校も保護者の方達が熱心に持参してくれました。預かった袋をただ渡すのは失礼なので、夜回りの日に全部ひもとき、それぞれ種類別に仕分け作業をしました。30kgの重い米袋を日曜日に運んでくれたこと（幼）。炊き出し一週間前から献品期間を決め職員室前にそのコーナーを設けてくれたこと（小）。大量もありがたく、少量にも心動かされながらの作業でした。せつせと汗垂らす思いで米袋や衣類を担いで来て下さった方。小さな容器に梅干しを詰めて差し出して下さった方。そのご自宅の貴重な食材から取り分けて詰めて下さった心。ビニール袋にお茶碗一杯分のお米を詰めてよこして下さった方。献品された衣類の一つ一つも実に丁寧な梱包で、くださった方のお心が伝わってきました。学校からの献品をよこす時もメールはいつも淡々と『これを持ってって下さったらありがたい』と言います。これらの仕分けをしながら、思わず何度も作業の手が止まってしまい、ジーンとなって目の前がかすみました。私のこの贅沢な『趣味』——一つ一つの献品を通して一人ひとりの優しさと暖かさに触れる贅沢な『幸福』を思うと、これは俺は止められないな、無にしたら罰が当たるな、とつくづく思いました。

次回の**炊き出しは11月12日**です。今月の私は仕事のために炊き出しに行けず、夜回りだけの

参加になりますが、**献品は届けますのでお願いします。**

※なお、炊き出しの様子は息子から聞く予定です。